

都道府県別賞一等

心のお守り

大分県 佐伯市立佐伯南中学校 一学年

笹沼 ころも

生命保険と損害保険を勉強したことで、身近な出来事も色々と考えさせられるようになった。保険の種類には、大きく分けると生命保険と損害保険がある。それぞれが、私たちの生活に深く関わっていることが分かった。

梅雨に入り、時には大雨が降り、ある日、家の前にある山が崩れそうになっていた。家族が心配する中、夜になり、全員いつも通り寝室で休んだ。朝になって起きると、山の土砂が近くの花畑にまで崩れ落ちていた。実はその花畑は、祖母が毎日毎日、草取りや水やりをして、大切に育てていたものだ。その花畑が土砂でいっぱいになり、祖母はとても悲しんでいた。翌日は、たまたま家族全員がそろう日曜日ということもあり、全員で土運びをした。空は曇っていたが、暑くて汗をダラダラとかきながらも、協力して頑張った。小学一年生の妹も小さな手袋をして、自分の顔くらい大きな石を一生懸命に運んで走り回っていた。とても大変だった。終わった後は、朝よりもずいぶんキレイになった花畑を見て、祖母に笑顔が戻っていた。

今回は花畑ですんだが、ふと、ある思いが浮かんできた。もし、もっと大きな土砂崩れだったら、土砂が家まで崩れてきて、家がつぶれていたかもしれない。山に一番近い部屋は、祖父母の寝室で、もしも夜の寝ている間に土砂崩れが起きたら、祖父母の命も危なかった。想像するだけでも、とても怖くなった。今回の土砂崩れでは、丸一日かけて、やっと元に戻せるようになったのに、家が土砂で崩れていたら、元に戻すのに、どれだけ時間がかかっていたのだろう。家族の力では、とても元には戻せない。それに、もし、家族の誰かがケガをしたら、その治療やリハビリなど、相当な時間と、まわりの協力と、費用がかかると、その生活とは、何百倍も変わる。

でもその時、家族の負担が減り、お金の心配を減らしてくれるもの、それが“保険”だ。大変な労力を使う家の修繕は、損害保険が助けてくれて、万一、家族の誰かがケガをしても、生命保険が守ってくれる。保険は、本人だけではなく、家族も守る力がある。私たちにとって、笑顔で居られる生活を続けさせてくれる、欠かせないお守りで、宝物だ。

私も大人になっていく中で、自分の生活や家族の生活を守る“保険”を、もっともって知って、笑顔で居続けられるようにしていきたい。